

平成25年7月25日（木）

第7回定例教育委員会会議録

我孫子市教育委員会

1. 招集日時 平成25年7月25日(木) 午後1時30分
2. 招集場所 教育委員会 大会議室
3. 出席委員 委員長 川村 敏光 委員 北嶋扶美子
委員 篠崎 和彦 委員 豊島 秀範
教育長 中村 準
4. 欠席委員 な し
5. 出席事務局職員
- | | | | |
|----------------------------|------|--------------|------|
| 教育総務部長 | | | 湯下廣一 |
| 生涯学習部長 | | | 高橋 操 |
| 教育総務部次長兼総務課長 | | | 小島茂明 |
| 文化・スポーツ課長兼白樺文学館長兼杉村楚人冠記念館長 | | | 西沢隆治 |
| 指導課長 | 野口恵一 | 鳥の博物館長 | 木村孝夫 |
| 学校教育課長 | 丸 智彦 | 図書館長 | 増田正夫 |
| 教育研究所長 | 石井美文 | 生涯学習課主幹兼公民館長 | |
| 文化・スポーツ課主幹 | 鈴木 肇 | | 今井政良 |
| 少年センター長 | 榊原憲樹 | 鳥の博物館主幹 | 斉藤安行 |
| 教育研究所副参事 | 鍵山智子 | 総務課主幹 | 廣瀬英男 |
| 図書館長補佐 | 宇賀神修 | 指導課長補佐 | 川村眞一 |
6. 欠席事務局職員 生涯学習部次長兼生涯学習センター長
兼生涯学習課長 増田建男

午後 1 時 3 0 分開会

○川村委員長 ただいまから平成 2 5 年第 7 回定例教育委員会を開きます。

会議を始める前に、教育委員並びに事務局職員にお願いします。我孫子市教育委員会会議規則第 1 8 条の規定により、会議で発言する場合は挙手をし、私が指名してから発言をお願いします。また、会議を円滑に進めるため、発言は一問一答でお願いします。

会議録署名委員指名

○川村委員長 日程第 1、我孫子市教育委員会会議規則第 3 1 条の規定により会議録署名委員を指名します。豊島委員にお願いいたします。

追加議案第 1 号

○川村委員長 日程第 2、諸報告の前に、本日、定例教育委員会開会前に我孫子市調査書誤記入問題調査対策委員会猪瀬委員長から教育長に調査報告書の提出がありました。このことについて事務局より追加議案第 1 号、我孫子市調査書誤記入問題調査対策委員会「調査報告書」の承認についての提出がありましたので、説明をお願いします。

○野口指導課長 追加議案第 1 号、我孫子市調査書誤記入問題調査対策委員会「調査報告書」の承認について。

我孫子市調査書誤記入問題調査対策委員会から別添の「調査報告書」が提出されましたので、承認をお願いいたします。

提案理由でございますが、我孫子市調査書誤記入問題調査対策委員会から本日付で調査・対策が完了し、別添「調査報告書」の提出がありましたので、承認を求めるものです。

今までの経緯について簡単に御説明をいたします。

この事故が起きましたのは3月8日、市内のA中学校におきまして保護者から、受験をした高校の調査書の開示資料の中の評定について疑問があるということがありました。翌日、学校内で調べたところ、記載ミスがあったということが発覚しました。全て調べた結果、114名のミスがあったということがわかりました。それを受けてですが、県のほうに再判定を依頼しましたが、この再判定によって市外の生徒1名の合格判定があったということでございます。

次の事故としましては、3月14日、B中学校におきまして、調査書のその他の欄の資格欄に記入ミスがあったということがございました。それからA中学校におきまして、同じように資格の記入漏れや誤記載があり、これにつきましても県のほうに再判定を求めたところでございます。その結果、判定に変更はないということでございました。

3つ目の事故といたしまして、B中学校におきまして、評定の記載ミスがございました。この件につきましても県の再判定を申し込みましたけれども、判定に変更はないという回答をいただいております。

この3つの大きな事故を受けまして、4月15日、16日に、この2つの中学校で調査チームが問題の洗い出しを行いました。この調査報告書をもとに5月8日に第1回我孫子市調査書誤記入問題調査対策委員会が開かれ、その中で事務局から問題点の洗い出しについて報告があったことを受け、もう一度原因についてその中で協議をしたということでございます。そして6月26日に第2回目の調査委員会が開かれまして、ここでは第1回目に出されたマニュアルの作成が急務であろうということを受けて、マニュアルの素案を提出し、その素案の内容について協議をいたしました。ここで何点か問題点、修正点が出されまして、本日9時より第3回目の調査対策委員会を開きまして、事務局より修正点について説明をし、マニュアルについて了解を得たということでございます。そして午後、この定例教育委員会の前ですけれども、この調査報告書を

取りまとめたものを猪瀬委員長、荒井副委員長より中村教育長に渡されるというに至りました。

この後の計画ですけれども、きょうここで報告書の御承認をいただいた後、8月7日には市内の中学校の管理職プラス進路担当の各校2名を対象にしたマニュアルの研修会を開催したいと思っております。その後、研修会を受けた者が自校に戻って、自校の全職員に対して伝達講習会を行っていくという予定になっております。

報告書の構成についてですけれども、調査書の誤記載、記入漏れ事故の経緯について載せてあることと、調査チームの報告、3回にわたっての第三者委員会での会議録、さらにはそのマニュアルについて載せてあります。

以上でございます。

○川村委員長 以上で説明は終わりました。各委員から質問、意見を受ける前に、私から一言申し述べさせていただきたいと思えます。

今般、我孫子市調査書誤記入問題対策委員会の委員の皆様方には、公私とも御多忙にもかかわらず貴重な時間を割いていただき、また幅広い御見識で当事案の原因究明及び再発防止策の策定につきまして闊達な議論をしていただきました。その成果を「調査報告書」としておまとめいただきました。この間の御労苦に心より敬意を表しますとともに、厚く御礼を申し上げたいと思えます。本当にありがとうございました。

各委員から御質問、御意見があれば挙手願います。

○北嶋委員 今、委員長がおっしゃったように、3回の急な会議にもかかわらず活発な議論をしていることは、私たちも見せていただきました。感謝しています。でき上がりましたこのマニュアルですけれども、この内容は、今までやっていらした教員の方々にとっては、今までずっとやってきた普通のことなので、今回初めて、これができて、これからこれにかかわる新しい先生方に、ぜ

ひ普通でなくて注意するべきという意識を持ってかかわっていただきたい。これがゴールではなくて、これが各学校にこれから周知されていって、各学校できちっとこれが使えるように、多分各学校によって、今までのやり方との違いがあったり、意見交換があるでしょうけれども、その辺も委員会と密なやりとりをして、よりよい我孫子市としてのマニュアルに仕上げていただきたいと思います。

この中で「3年間の歩み」というものができていますけれども、これについては、私はとてもいいものができたなと思っています、3年間、先生と子供が1つの用紙をやりとりすることによって、子供たちも自分の成長の過程が客観的に見られるし、先生も今までのような資料のチェックが煩雑ではなく、きちっと1枚の紙によって正しい情報のやりとりができるということで、この機能を生かした、いいやりとりができればなと思っています。

先ほどの会議の中でも、これが生きるシステムづくりをぜひしてほしいという委員さんからの意見がありました。私もぜひそう思いますので、これには我孫子市の協力がなければできないことだと思いますので、その辺は事務局でしっかりと意思を引き継いで、いいソフト、またマニュアルを生かすシステムができるように御尽力いただきたいと思います。そして子供たちや保護者が安心して我孫子で学習活動ができ、進路選択ができるような3年間の中学校生活を送れることを願っています。よろしく願いいたします。感想になりましたけれども、以上です。

○豊島委員 今、北嶋委員がおっしゃったように、短期間で集中的に審議をして、すばらしいマニュアルができたと思っています。このマニュアルどおりきっちりやっていけば、まず間違いは起こらないというふうに私も思っています。また、この作業のプロセスというのをビジュアルに、視覚的に把握することができて、確認することができたということは、今までベテランの先生方は頭の

中にあったことなのですから、それをこういうふうに置き直すことによって改めて確認できるし、今おっしゃったように、新しい若い教員たちに指導していくときに、これは非常にいい資料になると思います。そのことを評価したいと思います。

その上でなのですから、今回のこの問題が起きた原因の1つは、1人の人が入力あるいは移動のパソコン操作をしていた。1人の人がしていたということがあったと思います。何で1人の人がしていたのだろうということを、やはりもう一度考えておく必要があると思うのです。幾らきちんとしたマニュアルができたとしても、それを実行できるだけの環境がないと、これはやりたくてもできないということが起こる。それはすごくつらいことなので、そこをを考えていく必要があるだろうと思います。

もう1つは、きちんとした普通の成績だけではなくて、漢字検定とか英語検定とか、そういうものが記入ミスになっていたという例が圧倒的に多かったわけですから、そういうものも含めて、本当に成績をつけるということの重要さというのを、もう1回かみしめる必要があるだろうというふうに思います。先ほどの北嶋委員の意見にもありましたように、3年間の学習の中のいろいろなもの、あるいはそういった資格関係のものを本人がきちんと提示をするということになっておりますから、このマニュアルどおりやっていけば、それも防げると思っています。これはすごくいいと思います。ただ、今申し上げましたように、何でこれが起こったかということは、やはりマンパワーが結構不足しているというところもどうしてもあると思うのです。そこをこれからどうしていくか。幾らいいマニュアルができて、それが守りたくても守れないという状況にあると、これは本当につらいですね。

もう1つ、こういうことでよくなるだろうということは、例えば担任に全部ついていったら、1学年の中で担任以外にフリーの先生が何人いるかわからな

い、ですから複数で成績をつけたりするというのは難しいかもしれない。だけれども、やはり複数の先生が一緒になってやっていくことで、それぞれの話し合いというか、いろいろ考えて作業をしていく密度が深まると思うのですね。ですからこれはいいのではないかなと思います。1人ずつが別々に成績をつけるのではなくて、そういうことで密度が深まるということがあるし、いいのではないかなと思います。そういうことを学年ごとにやっているはずなのですが、全体が一堂に意見を交わせられるような時間が持てていけば、このマニュアルはきっちりと実行できていくのではないかなと思います。そうありたいと思いますので、もう1回しつこいようですけれども、1人がやったことによって事故が起こったということと、一般的な成績、1学年のときにミスをするということは論外ですからそこはカバーするとしても、普通の成績以外の資格関係のところはどうしても目が行かなくなる可能性があるのです。そのところですね。このマニュアルに対しては敬意を表します。感想が長くなりましたけれども、以上です。

○篠崎委員 きょう、この「調査報告書」ということで一応お預かりしたということの中で、またすぐ委員会で追加議案第1号ということを出されているわけですけれども、これについては私どもも第1回目から傍聴しておりまして、内容等についてもその時点時点で皆さんのお話しになっていることもよく理解できておりますし、この報告書については本当によくまとめられたものができるなというふうに思います。委員会の皆様には本当に敬意を表するところでございます。

先ほど指導課長から、今後の予定について、8月7日に管理職、進路担当の方の2名にマニュアル研修、その後自校に戻って全職員に伝達、報告するというふうなお話をお聞きしましたけれども、そういうお話だけ聞いていると何となく形式的なように感じられてしまうところもあるものですから、このところ

は本当に丁寧に、また1回でなくて何度もこういうことを続けて浸透していただきたいと思います。また、私どももその間いろいろと学校現場に行ったりして、その辺のところもまた見守っていきたいと思っております。以上です。

○中村教育長 先刻、調査対策委員会から「調査報告書」を受け取りました。その調査対策委員会の委員の方々の3回にわたる協議の中、そして先ほど教育委員の方々もおっしゃいましたように、集中的に細かいところにまで審議をいただいた結果が報告書としてまとめられております。報告書としてまとまっただけでは、先ほど調査対策委員会の委員長さんからもありましたように、生徒や保護者あるいは地域の市民の方々の信頼は得られません。やはりこれをきちっと活用して、また改善をしていく中で、この報告書が本当に生きてくるのではないかなと考えております。したがって、これで終わりということではなくて、これからスタート台に立ったというような気持ちで事務局職員とともに、また学校現場の先生方と力を合わせて、二度とこのようなことが起きないようにしていきたいと考えております。教育委員の皆様方、そして調査対策委員会の方々も、必要であればまた集まりますよというような会議の中でのお話もありましたけれども、今後とも見守っていただいて適切なアドバイスをいただければありがたいと思っております。

いずれにしても、調査対策委員会の委員の皆様方には、本当にお忙しい中、それぞれの立場でいろいろな建設的な意見をいただきました。無にしないように事務局として頑張っていきたいと考えております。ここには委員さんはおられませんけれども、お礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。以上です。

○川村委員長 総括をさせていただきますが、我孫子市教育委員会として、これからこの貴重な「調査報告書」を委員会事務局、市内の小中学校に徹底して

まいる所存でございます。

最後に、今後このような間違いを二度と起こさない、そして我孫子市内の子供たちが正しい評価を受けることができるようなチェック体制、それから制度の確かなシステムづくりを強力に推進してまいります。信頼回復には道は大変険しいと承知しておりますが、これからも改善への歩みを進めてまいりますので、市民の皆様方にも御理解をいただきたいと心よりお願い申し上げます。以上です。

追加議案第1号について、そのほかありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○川村委員長 ないものと認めます。

○川村委員長 追加議案第1号、我孫子市調査書誤記入問題調査対策委員会「調査報告書」の承認について、原案を承認することに賛成の委員は挙手願います。

(賛成者挙手)

○川村委員長 挙手全員と認めます。よって追加議案第1号は承認されました。

諸 報 告

○川村委員長 日程第2、諸報告を議題とします。事前に配付された事務報告に補足説明や追加する事項がありますか。

○野口指導課長 7月に行われましたスポーツの大会の結果、全国大会や関東大会に出場する選手またはチーム等について御報告いたします。

7月14日に第29回全国小学生陸上競技交流大会千葉県選考会が行われました。そこで小学校男子ソフトボール投げにおきまして、高野山小学校の萩原さんが65m65cmで第1位、全国大会出場でございます。

小学校男子80mハードル、湖北小学校の渡邊さん、13秒07で1位、全国大会出場でございます。

小学校女子ソフトボール投げ、湖北台東小学校の相澤さん、61m46で第1位、全国大会出場です。

続きまして、7月6日、7日に行われました全日本通信陸上競技大会千葉県大会で関東大会・全国大会に出場する選手等を御紹介します。

共通男子400mリレー、我孫子中学校のリレーメンバーが関東大会・全国大会に出場します。記録は44秒22で第1位ということでございます。

共通男子走幅跳、湖北台中学校の中村さん、6m59で第1位、関東大会出場です。

共通女子400mリレー、白山中学校、49秒01で第1位、全国大会出場です。

共通女子400mリレー、これも白山中学校のメンバーでございますが、49秒01で第1位、関東大会出場です。

共通女子100mハードル、15秒08で第3位の石垣さん、関東大会出場です。同じく2年女子100mの三木さん、13秒33で第3位、関東大会出場です。

2年男子100mの本間さん、11秒79で第2位、関東大会出場です。

2年男子100mの田島さん、11秒84で第3位、関東大会出場です。

続きまして、7月7日に行われました千葉県中学校水泳競技大会の予選会の結果ですけれども、我孫子中学校のメンバーが女子400mメドレーリレーで4分37秒17、第3位ということ全国大会出場です。

女子200m個人メドレー、白山中学校の柏崎さん、2分22秒33で第1位、全国大会出場です。

男子200m自由形、白山中学校の荒井さんが第3位、2分2秒40、男子

100m自由形で同じく白山中学校の荒井さんが第5位、56秒38ということで関東大会に出場です。

さらには、先日まで行われておりました葛南大会を勝ち抜いて県大会出場ということでごらんいただければと思いますが、我孫子中学校から、陸上部（個人・男女リレー）、水泳部、野球部、サッカー部、ソフトボール部、男子ソフトテニス部（団体・個人）、女子ソフトテニス部（団体・個人）、男子バレーボール部、男子バスケットボール部、柔道部（男子団体・男女個人）、剣道部（女子団体・男子個人）が県大会に出場します。

湖北中学校につきましては、陸上部（個人）、剣道部（男子団体）、柔道部（男女個人）、男子ソフトテニス部（個人）、女子ソフトテニス部（個人）。

布佐中学校は陸上部（個人）、湖北台中学校は陸上部（個人）、女子ソフトテニス部（個人）、剣道部（男女団体・男女個人）、久寺家中学校は陸上部（個人・女子リレー）、白山中学校は陸上部（個人・男女リレー）、水泳部、女子バスケットボール部が出場します。

葛南総体の予選なしに県総体に出場する選手は、我孫子中学校のレスリング（男女個人）、湖北中学校のレスリング（女子個人）、湖北台中学校のレスリング（男子個人）、久寺家中学校の体操（男子個人）ということでございます。これから大会が行われます。以上でございます。

○川村委員長 ほかにありますか。

これより事務報告に対する質問の時間とします。質問はありますか。

○豊島委員 1ページ、総務課のところですが、耐震補強の工事ですが、着々と進んでいる様子がよくわかります。これはまだ途中なのでしょうけれども、1ページ目のところに①②③と3つの学校の施設管理がありますが、以前に御説明いただいて私が失念しているのかと思いますが、これは全体から見たら今ほどのあたりのところまで進んでいるのでしょうか。ちょっとその辺が私は失念

していてわからないのですけれども、おおよそのことで結構です。

○小島教育総務部次長 耐震工事につきましては、校舎が23年度までで全て終わっております。今、体育館について行っていますが、来年度で全て終わらせる予定で進めていまして、来年度4校行います。それで全て完了させるということで進捗しております。

○篠崎委員 指導課にお尋ねしたいのですけれども、事務報告の6ページです。一番下の7に小中一貫教育実態調査アンケートとございますけれども、市内全中学校で実施し、回収率が下にそれぞれ出ております。一言で言えないかもしれませんが、このアンケートの内容というのは大体どのような傾向だったでしょうか。

○榊原少年センター長 昨日、この集計の一覧表の概略が私の手元で完成した状況でして、まだ詳しくは精査しておりませんが、見たところ、やはり小学校5、6年生対象の中では、中学校に向けての不安感というものは存在する。状況としては5年生よりも6年生のほうがその割合がふえているということは、今概略なのですけれども、中からつかんでおります。

○篠崎委員 中学生についてはどうですか。

○榊原少年センター長 まだ詳しく申し上げられなくて申しわけないのですけれども、中学校になって小学校時代にあった不安感が解消しているという生徒もいるのですけれども、やはり不安感が少々残っているという回答がありましたので、そこら辺の要因についてはさらに詳しく調べていきたいと考えております。

○篠崎委員 回収率としては非常に高いものだと思いますので、よく精査して今後ぜひ生かしていただきたいと思います。出ましたら報告をよろしくお願ひしたいと思います。

○榊原少年センター長 アンケートの結果と分析につきましては、次回の教育委

員会議において皆様方にお知らせできるように準備を進めております。

○北嶋委員 関連ですけれども、この表について質問させてください。

まず場所が市内各小中学校、参加者が教職員と5年、6年、中1の児童生徒。内容のところですが、市内全中学校で実施、それから回収率がそれぞれ書いてありますけれども、質問としまして、まず各学校でやられたけれども、回収率が100ではなかったというところをお答えいただけますか。

○榊原少年センター長 大変失礼しました。内容にあります場所ですけれども、市内全小中学校となります。大変失礼いたしました。

そして回収率が児童生徒については100%でない理由なのですけれども、これにつきまして主な原因としましては特別支援関係の児童生徒ということで、なかなかアンケートの趣旨、内容を把握して回答することが状況として難しかったということが挙げられます。以上です。

○北嶋委員 ありがとうございます。パーセントは少ないですけれども、人数からするとそこその人数になるので、ちょっと疑問だったのでクリアになりました。

○豊島委員 学校教育課をお願いします。3ページから5ページ目にかけていろいろ委員会、研修会等が出ています。その中で例えば5ページ目の最後にあります養護教諭の研修会の件ですけれども、定期的に行っていることは必要だと思います。その中の内容として、情報交換、そういうことだと思いますが、養護の先生は学校の中でいろいろな役割を担っているのですよね。時代によっていろいろ変わってきていると思いますけれども、学校に行ける、行けないとか、いろいろなかわりがあると思うのですが、この情報交換の中で、今現在養護の先生たちが抱えている問題というのはさまざまだと思いますけれども、例えばどういうふうな情報交換、問題というのがあれば教えていただきたいなという気持ちがあります。

○丸学校教育課長 この6月の5番目にある養護教諭研修会というのは、健康診断を各学校で毎年度1回必ず行うわけなのですけれども、その集計とか、そのことについての話し合いというのがほとんどでした。

10番目にある7月12日（金曜日）というのは、1学期間を通して、例えば各学校での特色ある保健室の利用法、こんな掲示物をやりましたよとか、そのような発表をしております。

今、保健室というか、養護教諭で一番問題になっているのはそれぞれあるわけなのですけれども、やはり学校の中では長欠の生徒の扱いということで、心の相談員さんというのは我孫子市のほうで派遣していただいているわけなのですけれども、それからスクールカウンセラーのかかわり方とか、そういうことについてもこの研修会の中で議論等を深めているところです。それが一番かなと思っております。

○豊島委員 ありがとうございます。長欠といってもさまざまだし、養護教諭、保健室だけの対応ではないと思います。例えば最近目立って多くなってきている長欠の問題というのはどうなのでしょう。やはり保健室のそういった利用というのが以前はやはりあったのですけれども、今そういうところは流れとしては余り問題にはなりませんか。心の相談室とか、そちらのほうに回すことでそれらの解決というのはなされているというふうに判断していいのですか。

○丸学校教育課長 もちろん大多数は心の相談室等のほうに入っておりますけれども、心の相談員さんがいないときもございますので、養護教諭が必ず間に入って、養護教諭のところに話に来るとか、休み時間だけ養護教諭に話に来て、それで解決できる問題というのは結構ございますので、そういった子供もいるので、どちらかという心相談室、ただ、かぶっていないときには養護教諭が結構入っているという状況です。

○豊島委員 いろいろな対応で、そういう問題があれば解決していくという方向だなと思いました。これからもよろしくお願いします。

○川村委員長 ほかにありますか。

○北嶋委員 1ページに戻るのですけれども、今まで何年間かこのように総務課がやっていた耐震補強とか工事の中で、進捗状況の中に6月と今月で第1回定例会議開催という表記が今年度から出たように思いますけれども、この会議の性格というか、種類の御説明をいただけたらと思います。

○小島教育総務部次長 定例会議といいますのは、施工業者が決まって、それ以降に当然契約をしていくわけなのですけれども、実際に学校現場で学校と教育委員会、市の施設管理課、設計業者、施工業者が全て集まりまして、どういった形で工事を進めていきますというようなものが契約以降始まってきます。定例会議は1回だけではありませんので、随時必要に応じて行っております。今回、進捗状況の中では契約が済んだものについて1回、この御報告は6月15日から7月15日までの間に定例会議が行われましたという形で掲載させていただきました。

○北嶋委員 今まで割と「工事中」という表記が多かったので、こういう表記を先月から見ましたので、ちょっと確認させていただきました。ありがとうございます。

○川村委員長 ほかにありますか。

○北嶋委員 12ページ、教育研究所です。いじめ・悩み相談ホットラインが開設されて大分時間がたちますけれども、今回の報告を見ますと、我孫子市以外の方々からの御相談もあるということで、確かにネットでオープンすれば、それこそ世界中に情報が行くということで、こういうのもあるんだなと、私はここまで考えて今までこの開設について発言しなかったもので、こういうことに対応を研究所はしているのだということを初めて感じました。研究所としてそ

の辺の対応は、市内、市外を分けるわけではないでしょうけれども、市外の相談に対しては特に気をつけていることはありますか。

○石井教育研究所長 市外の生徒からで、特に遠方からかかってくるケースがありまして私どもも大変びっくりしたのですけれど、子供にとっては、自分の名前とかいろいろなことを話すときに、地元ではどこかから情報が流れてしまうのではないかという不安を持ってわざわざ遠くにかけてということをはっきりと言う子供もおります。そういった子供に関しては十分話を聞いた上で配慮をしながらできるだけ適切なアドバイスをするとともに、場合によっては、このケースは近くに相談するダイヤルとかがありませんかということ聞いた上で、そちらのほうに必要であれば我孫子の教育研究所からお話しもしますし、御両親に話したり地元の相談機関に話してくれれば学校へつなげることもできるので、そういうことが可能であれば、そういう手続というか、順番をしっかりと踏んでやっていきたいと思っておりますというような形で回答をしています。

○北嶋委員 福岡とか大阪から、我孫子がどこにあるんだろうということがわかっているのかわからないのか、それでも相談をしたいという子供たちを救うことができるのであれば、これはまた違った、大きな意味で開設してよかったのかなと、今回私は逆に教えられた気がします。ありがとうございます。

○豊島委員 指導課をお願いします。7ページの下の要請訪問のところですが、例えば1番目、2番目、湖北台東小学校とか高野山小学校の内容のところにある部活動指導法研修会、4年から6学年の部活動指導法研修会、下の国語とか何とかというのは別として、部活動指導法研修会というのはどのような要請があって、部活動をどういうふうに指導したらいいかということがテーマだと言われればそれまでですけども、具体的にはどういうふうなイメージを持てばいいのかなと読みながら思っていたのですけれども、例えばどのような部活動の指導というのが要請さ

れるのでしょうか。ちょっと教えていただければありがたいのですけれども。

○野口指導課長 今年度より体育の専門の指導主事が入りました。そこで各学校は、とても若い先生方がふえまして、小学校におきましても、特に陸上の部活練習について指導法で悩んでいる学校がたくさんあるということで、もちろんこれは直接児童に指導ということではなくて、指導に当たる先生方に基本的なアップの仕方であったり、または陸上競技においてどういう練習方法を取り入れたら記録が伸びるのか、それを具体的にお互いに体を動かしながら指導する。そういうような形で要請は受けております。

○豊島委員 わかりました。体育専門の指導主事が入ったということは了解ですが、先ほど県大会の選考の結果を教えてもらったところなのですから、体育専門の指導主事がいなかったときは、こういうことはやれなかったわけですよ。これはたまたま入ってきたからやれたということなのですか。陸上の指導者というのは、陸上専門であろうとなかろうと、部活動はどこでもやっているのですよね。定期的に陸上専門の指導主事を回しながら採用していくとか、そういう計画的なことなのですか。たまたまなのですか、これは。

○野口指導課長 指導主事を教科ごとに計画的に入れていくということはありません。今回たまたま体育専門、特に陸上について非常に詳しい者が入ってきました。もちろん全部の学校を回っているということではなくて、学校の先生方にも陸上の指導に長けた方もたくさんいらっしゃいます。または外部からお呼びする、外部講師を招いて今までもそういう研修を、または小学校であれば近くの中学校の先生に指導を受ける。これは今も行われていることではありますけれども、今回専門の者が指導主事として入ったということですから、これはどんどん活用していただければなというふうには思っております。

○豊島委員 今そのようにお話をお願いした背景は、これは小学校ですけれども、部活動の指導というのは結構時間もかかるし、それぞれ本当に専門的な知

識も必要なのですね。そういうことが教員の仕事の中でかなりの比重を占めているのです。それがいろいろな意味で教員の仕事の多さにもつながっていくわけですが、そういうところでこういった指導があれば、それはそれで、時間が短縮されるとは言わないけれども、精神的にはすごくいいのではないかなとは思うのです。ですからいいことだと思うのですけれども、たまたま入ってきたということはそのとおりなのだろうけれども、その辺が一定の考え方で入っていくようになればいいのかなというふうには思います。体育だけではない、指導主事で専門の知識を持った人もいるだろうから、どうなっているのだろうと改めて意識に上った次第です。またこれからのことをいろいろ教えてもらえればと思いますけれども、今はそこで結構です。ありがとうございます。

○川村委員長 ほかにありますか。

○篠崎委員 指導課にお尋ねしたいのですけれども、7ページの9番、Q-U検査についてです。市内全小中学校で実施、回収率が100%ということですが、この結果というのは全て出ているのでしょうか。

○野口指導課長 結果については業者のほうに任せて分析をしてもらうということでございます。今、業者のほうで分析をいただいている最中ですので、恐らく8月の頭には結果がこちらに上がってくるのではないかと思います。

○篠崎委員長 次回の定例委員会には間に合うわけですか。

○野口指導課長 それを受けて指導課の中でもう一度見直し作業を進めて、なるべく早い段階で御報告できればと思っております。

○川村委員長 あわせて私からこれに関連した質問をさせていただきます。回収率100%ということなのですが、これは在校生に対して100%なのか、アンケートを配付した中での回収率なのか、その辺はいかがですか。

○野口指導課長 そのときにアンケートを配付して実施したものが100%と

ということで、対象学年の全ての児童生徒ということではありません。

○川村委員長　また逆に質問しますが、このQ-U検査に引っかけからなかった、また対象にならなかった方の人数はどのくらいいらっしゃいますか。

○野口指導課長　すみません。そこはまだ把握をしておりません。早急に把握をして、なるべく実施できる児童生徒については実施をしていきたいと思っております。

○川村委員長　なぜこんな質問をしたかという、いじめ問題も全てそうなのですが、このQ-U検査が必要だという方々が受けられないということ自体が問題で、必要としている人にこういった情報の提供並びに分析、活用をすることが第一義であります。ですから、その辺を踏まえて調査をするように心がけていただきたいと思います。わかり次第、報告をお願いします。

ほかにありますか。

○北嶋委員　14ページ、生涯学習の企画調整担当です。14ページにライブラリー使用状況がずっと書いてあります。そしていろいろな教材資料があります。私、昨日インターネットでいろいろ調べたら、いろいろなDVDの資料が入っていました。相当な数になっていましたけれども、この資料の補充や追加はどのようなペースで、どういうチェックをして行われていますか。例えばDVDソフトで結構です。

○川村委員長　休憩します。

午後2時19分休憩

午後2時21分再開

○川村委員長　再開します。

○高橋生涯学習部長　お答えいたします。DVDソフトにつきましてはある程度予算化しておりまして、その必要性に応じて購入しております。1つの例を

挙げますと、男女協働参画室からその関係のDVDが欲しいということがありましたので、それについては購入しております。随時そういった要望にも応えられるようにしております。以上です。

○北嶋委員 ありがとうございます。いろいろなジャンルで、それこそ子供向けのものから福祉のことから、新しい映画、昔の映画とかいっぱいあったので、これはどういう基準で、どなたが入れているのかなということが気になりましたので質問させていただきました。ありがとうございます。

○川村委員長 ほかにありますか。

○豊島委員 鳥の博物館の33ページのところをお願いします。33ページの4番の協力というところなのですが、職場体験の我孫子第一小学校、6月18日、午前中ということですが、3人の6年生の職場体験というのはおもしろいなと思うのですが、大学生が就職するときに職場に行って体験をするということかあるのですが、そういったこととは違って、実際の鳥の博物館でどういう仕事をしているかということを経験させるという形ではないのでしょうか。これは今までも継続的にこういう職場体験というものはやっていたことなのではないのでしょうか。

○木村鳥の博物館長 お答えいたします。この職場体験は、子供たちにいろいろ職場体験してもらおうという中で受け入れたものでございまして、委員がおっしゃったように、見学してもらおうということでございます。

○野口指導課長 この職場体験はキャリア教育の一環として行っております。生涯学習、また自分の将来を見通して、働くということについて、小学校の場合ですと半日、中学校ですと2日が主で体験をしていく。小学校の場合は見学が主になりますけれども、中学校は実際に職場の中に入って働くという活動が入ってきます。たくさんの事業所さんに協力していただいておりますけれども、児童生徒の行きたいところ、ニーズに沿う形でなるべく進めるような形をとっ

ておりますが、なかなかその辺が子供たちの希望と合わないところもあったり、または実施する時期と職場のほうでうまく合わないということも起きておりますけれども、年に1回は事業所さんと校長先生を含めた職員の話し合いの場を持つということも行っております。ちょっとまとまりませんが、そういうことでキャリア教育の一環として行っております。

○豊島委員 わかりました。6年生3名がここに来ていたわけですが、例えば我孫子第一小学校はキャリア教育の一環としてということで、ほかにも出ているのでしょうか。これは教育の中にある程度きっちりと組み込まれているのでしょうか。それとも単なる希望だけでこうやっているのでしょうか。私はよく知らなかったのですが。

○野口指導課長 もちろん学校のカリキュラムの中にきちんと位置づけられております。小学校6年生、中学校2年生のカリキュラムの中にきちんと位置づけております。夏休み中に実施をする学校もありますし、その時期は学校によってさまざまです。事業所の数もそんなに多くはないわけですので、同じ時期になるべく集中しないように、その辺は担当者が集まったときの話し合いであったり、また指導課の中で担当がおりますので、その辺は調整をしていくということで行っております。

○豊島委員 もう一言だけいいですか。小学6年生と中学2年生はカリキュラムの中に組み込まれていて、これはほぼ全員がそういう体験をするというふう考えていいのですね。

○野口指導課長 そのとおりでございます。6年生と中学2年生については必ず体験をしていく。それ以外の学年についても、キャリア教育という観点でカリキュラムの中に組み込んで学習を進めているということです。

○川村委員長 ほかにありますか。

○北嶋委員 今の関連で、36ページの図書館の「ゆめ・仕事ぴったり体験」

というのも今のキャリア教育と内容は一緒ですよ。

○増田図書館長 36ページの「ゆめ・仕事びったり体験」は、我孫子市の中でのキャリア教育の呼び方なのですけれども、委員がおっしゃるとおり、図書館で子供たちが仕事の実体験をしていただくということで、鳥の博物館と同じです。

○北嶋委員 指導課に伺います。こういうときに同じ文言を使われると、もう少しわかりやすいですよ。

○篠崎委員 関連して。これについて確かに鳥の博物館だったり、図書館のほうにもありますけれども、例えば近隣センターあたりは市民活動支援課経由でそういう要請が来るのですよね。そういったものなんかが入ってくるといろいろなところに行っているの、一元化してもらったほうがわかりやすいですよ。

○高橋生涯学習部長 お答えいたします。確かにわかりにくい表記だと思いますので、統一した表記の仕方で、またキャリア教育ということもわかるような表記にしていきたいと思います。よろしくお願いします。

○川村委員長 次年度からよろしくお願いします。

ほかにありますか。

○中村教育長 補足ですけれども、先ほど職場体験、キャリア教育として教育課程の中に含まれているというような説明がありましたけれども、中学校は9教科、小学校は8教科ですが、9教科、8教科以外の学習する分野に総合学習というものがあまして、その総合学習の中でこういう職場体験を実施しているのが多くの学校でのパターンです。

○川村委員長 ほかに質問がなければ、事務進行予定について質問はありますか。

○北嶋委員 6ページ、指導課の8番目です。8月23日のコーディネーター

会議で、けやきプラザホールで講演が行われるようですが、ここに書いてある参加対象者500人の中身、教育研究会会員という方はどういう方でしょうか。

○野口指導課長 我孫子市教育研究会は我孫子市内の小中学校の教職員が全て含まれます。教職員でつくっている研修会です。ここと学校支援地域本部のコーディネーターの研修をあわせて実施をしていくということで、今回は初めての試みですけれども、ここにコーディネーター会議を入れたということです。

○北嶋委員 著名な先生ですので興味深く見たのですが、参加対象者についてはわかりました。ありがとうございます。

○川村委員長 関連して、これ以外の方で参加される方はいらっしゃるのでしょうか。

○野口指導課長 これ以外で参加したいという方もいらっしゃるかもしれませんが、これは会員が会費を集めてつくっている研修会でございます。そこに今回は地域支援本部のほうも、この講師を招く上での謝金等もこちらが出しておりますので、一般の方につきましては遠慮していただくという形になっております。ですからこれ以外の方は参加できないという状況です。

○川村委員長 もう1点。そうすると、これは事業ではなくなるのですか。我孫子市教育委員会の事業として、これを後援しているという形になるのですか。

○野口指導課長 指導課主管で学校支援地域本部事業を進めておりますので、その関係で今回はここに載せさせていただいた、共催という形で行う事業ということで、昨年度までは我孫子市教育研究会だけの事業ですから、ここには載ってこなかったわけですが、今回は一緒に行うということで、ここに載せさせていただいております。

○川村指導課長補佐 補足をさせていただきます。昨年までは夏に学校支援地域本部担当者とコーディネーターの研修会を開いておりまして、そのときには講師を外部から呼んで講演会もしくは皆さんで講話をいただいたりというよう

な流れでやっておりました。今回、藤原さんをお呼びするに当たって、大変有名な方なので、コーディネーター担当者会議だけではもったいないのではないかとということで教育研究会のほうとも話をしまして、両方でそういう話が聞ければということと、学校支援地域本部を立ち上げてやっていた藤原さんということもあって、そういう話なども聞ければということで、コーディネーターの研修も兼ねております。以上です。

○川村委員長 ほかにありますか。

○北嶋委員 18ページの鳥の博物館で、7番にティーチャーズ・デイというのがあります。内容をとても興味深く読ませていただきました。これは毎年恒例のことですか。

○木村鳥の博物館長 お答えいたします。今年度新たに始めるものでございます。今、博学連携という形で国のほうでも、また新指導要領のほうでも、学校の授業の中で博物館の役割をどんどん展開していくという方針が出ております。学校現場でも、1つはこちらのほうから出前という形もありましょう。こちらのほうから学校現場で新指導要領に即した授業の一環というか、そうしたものも提供できるのではないかとということで、プログラムを今検討しているところでございます。学校の先生方にこちらのほうから説明するとともに、先生のほうからもいろいろな御意見を聞いていきたい。そうした中でティーチャーズ・デイをこの夏休みに設けるものでございます。以上です。

○北嶋委員 初めての試みということで、これは市内小中学校に参加者を募って催される行事ですか。

○木村鳥の博物館長 現在募集中でございまして、2日間にわたりまして、それぞれの都合のいい日に来ていただくということで、各日20名を予定しております。19校ございますので、1校において2人の先生が参加されるといいのかなということで募集中でございます。

○川村委員長 ほかにありますか。

○豊島委員 生涯学習課、10ページの視聴覚ライブラリーの夏休みアニメ映画会のところです。上映作品の中に49分の「年中行事」というのがあるのですけれども、そのほかの2、3はいいとして、1ももちろんいいのですけれども、この「年中行事」というビデオはどのような意図のもとで、あるいは毎年これはやっていたことでしょうか。ちょっと「年中行事」というのが浮いてしまうような気がするのですけれども。

○川村委員長 暫時休憩します。

午後2時36分休憩

午後2時37分再開

○川村委員長 再開します。ほかにありますか。

教育事業全般についての質問はありますか。

○北嶋委員 「きずな」の116号をいただきました。前回、私は「きずな」に大分きついことを申し上げて反省していますが、今回この中の少年指導員さんのつぶやきということでお二方の文章、また裏に編集後記ということで、お一人の編集の方の御意見、お気持ちが書かれています。これを読むことによって、活動している方がどういう思いで活動をされて子供たちに当たっているのか、また、そのときの様子がどんな雰囲気で行われているのかということが、ここのA4半分ぐらいの文章からとても伝わってきました。裏面の「インターネットと子どもたち」がシリーズ化されて、今回第1回で今後も続けますということで、私は今回の「きずな」を読ませていただいてとてもよかったなと思っています。活動している方々の素直な気持ちが見えてきて、ああ、そうなんだと、件数云々も大事ですけれども、こういう気持ちで皆さんが我孫子の子供たちに当たってくださっていて、そのとき子供がどういう表情をしている

のかということが、この文章から子供の顔が見えてきますので、とてもありがたい文章だと思って読ませていただきました。ありがとうございます。

ただ残念なのは、ホームページをあげましたら、ちょっと古いかなと思いますので、お戻りになったらチェックをして、新しい情報が欲しいのでよろしくお願いたします。

○榊原少年センター長 「きずな」につきまして御意見をありがとうございました。今回は年9回のうちの3回で、実際の活動をしていらっしゃる方に編集委員として編集していただいたものです。今伺った北嶋委員のお言葉をぜひ編集委員にじかに伝えて、編集委員は本当に骨を折って、暑い中各地区の自治会長のところを回り、この「きずな」をお届けいただいたり、骨を折っていただいていますので、ぜひとも伝えたいと思います。

また、ホームページにつきましては早急に対応いたします。以上です。

○川村委員長 ほかにありますか。

○北嶋委員 もう1つ、生涯学習のほうのホームページがとてもよくなっていて、わかりやすく、見やすく、楽しいコンテンツになっていて驚きました。あびこ楽校を開こうと思えばすぐに開けるし、イベントや何かもカレンダー的になっていて、おもしろいページができていたので、これはいいなと思いました。感想ですけれども、述べさせていただきました。

○川村委員長 ほかにありますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○川村委員長 質問はないものと認めます。

○川村委員長 事務局より追加議案が提出されました。

追加議案第2号、平成26年度使用小・中学校用教科図書、文部科学省著作教科書、拡大教科書、学校教育法附則第9条の規定による教科用図書の採択に

については秘密会とすることを発議しますが、御異議はございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○川村委員長 御異議ないものと認めます。よって追加議案第2号の審査は秘密会とします。議案提出関係者以外の退席をお願いいたします。

(関係者以外退席)

○川村委員長 以上をもちまして今定例会に付議された案件の審査及び質問等は全て終了いたしました。これをもちまして平成25年第7回定例教育委員会を閉会します。

午後2時46分閉会